



Cisco Meeting Server および Web アプリケーション

リリース 3.8

リリースノート

2024 年 5 月 15 日

目次

変更事項	4
1 はじめに	5
1.1 Cisco Meeting Server	5
1.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーション	5
1.3 スマートライセンス	5
1.4 ソフトウェアメンテナンスの終了	6
2 Cisco Meeting Server	7
2.1 Cisco Meeting Server の新機能	7
2.1.1 Web アプリケーションセッションのタイムアウト	7
2.1.2 Meeting Server でアンケートを有効にする	7
2.1.3 Jabber プレゼンスを更新する	9
2.1.4 coSpace にタグを追加する	11
2.1.5 Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度を設定する	12
2.1.6 callProfiles API に名前を割り当てる	12
2.1.7 Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信をサポート	13
2.1.8 画面共有の改善	14
2.2 API の追加および変更の概要	14
2.3 MMP の追加および変更の概要	16
関連するユーザーマニュアル	17
3 Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.8 をアップグレード、ダウンロード、展開する	18
3.1 リリース 3.8 へのアップグレード	18
3.2 ダウングレード	20
3.3 Cisco Meeting Server の展開	21
3.3.1 注意点 :	22
4 Cisco Meeting Server Web アプリケーション	23
4.1 Cisco Meeting Server Web アプリケーションの新機能	23
4.1.1 会議でコンテンツ共有を最適化する	23
4.1.2 会議中にアンケートを作成する	24
4.1.3 仮想背景のパフォーマンスが向上	26
4.1.4 会議中のプライベートチャット	27
4.1.5 チェコ語のサポート	27

4.1.6	UI 変更	27
4.1.7	アクセシビリティの向上	27
4.2	Web アプリケーションを使用する	28
4.3	テスト済のブラウザバージョン	28
4.3.1	Safari ブラウザのアクセシビリティ設定に関する重要事項	29
4.3.2	Microsoft Edge のグループポリシー設定に関する重要な注意事項	29
4.4	製品に関する資料	30
5	バグ検索ツール、解決済みの問題と未解決の問題	31
5.1	Cisco Meeting Server で解決された問題	32
5.2	Cisco Meeting Server Web アプリケーションで解決された問題	32
5.3	Cisco Meeting Server の未解決の問題	32
5.3.1	既知の制限事項	33
5.4	Cisco Meeting Server Web アプリケーションで未解決の問題	33
付録 A	: Meeting Server プラットフォーム メンテナンス	34
A.1	Cisco Meeting Server 1000 およびその他の仮想プラットフォーム	34
A.2	Cisco Meeting Server 2000	34
A.3	コールキャパシティ	34
A.4	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコール キャパシティ	37
A.5	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ：外部コール	37
A.6	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのキャパシティ：混在（内部 + 外部） コール	38
付録 B	: アプリケーション機能の比較	39
	アクセシビリティの注意事項	44
	アクセシビリティサポート機能	45
	シスコの法的情報	46
	シスコの商標	47

変更事項

バージョン	変更
2023 年 9 月 7 日	バージョン 3.8 の最初のリリース

1 はじめに

このドキュメントでは、Cisco Meeting Server ソフトウェアのバージョン 3.9 および Cisco Meeting Server Web アプリケーションにおける新機能、改善、および変更について説明します。

1.1 Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server ソフトウェアは以下でホストできる場合があります。

- Cisco Meeting Server 2000、B200 ブレード 8 枚を搭載した UCS 5108 シャーシ、および唯一のアプリケーションとしてプレインストールされた Meeting Server。
- Cisco Meeting Server 1000、VMware を事前設定済みの Cisco UCS サーバー、および VMware 導入環境としてインストールされた Cisco Meeting Server。
- または仕様ベースの VM サーバー上。

このリリース ノートではこれ以降、Cisco Meeting Server ソフトウェアを Meeting Server と呼びます。

注： Cisco Meeting Management は、製品登録と、スマートライセンスのサポートに関連するスマートアカウントとのやり取りを処理します。Meeting Server 3.9 には Meeting Management 3.9 が必要です。

- **アップグレード：**最初に Meeting Management をアップグレードし、スマート ライセンスを完了してから、Meeting Server をアップグレードするワークフローを推奨しています。

これよりも前のバージョンからアップグレードする場合は、**backup snapshot <filename>** コマンドを使用して設定のバックアップを作成し、別のデバイスに安全に保存することを推奨します。詳細については、『MMP コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

1.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーション

Cisco Meeting Server Web アプリ (Web アプリ) は、ユーザーが会議 (音声とビデオ) に参加し、画面の表示情報を共有できる、Cisco Meeting Server 用のブラウザベースのクライアントです。

1.3 スマートライセンス

3.4 リリース以降、スマートライセンスは Meeting Server に必須です。3.4 リリース以降、従来のライセンスのサポートは廃止されました。スマートライセンスに移行することをお勧めします。

スマート ライセンスと Meeting Management のアップグレードの詳細については、Meeting Management [『リリースノート』](#) を参照してください。

1.4 ソフトウェアメンテナンスの終了

Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.9 のリリースでは、Cisco は、表 1 に記載されているソフトウェアのソフトウェアメンテナンス終了のタイムラインを発表しました。

表 1 : Cisco Meeting Server のバージョンのソフトウェアメンテナンス終了予定

Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン	ソフトウェアメンテナンス終了の通知期間
Cisco Meeting Server 3.7	Cisco Engineering が Cisco Meeting Server バージョン 3.7.x の最終的なソフトウェア メンテナンス リリースやバグ修正をリリースする最終日は、2024 年 8 月です。
Cisco Meeting Server バージョン 3.6.x	Cisco Engineering が Cisco Meeting Server バージョン 3.6.x の最終的なソフトウェア メンテナンス リリースやバグ修正をリリースする最終日は、2024 年 1 月 5 日です。

Cisco Meeting Server に関するCisco のソフトウェアメンテナンス終了ポリシーの詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

2 Cisco Meeting Server

ドキュメントのこのセクションでは、Meeting Server バージョン 3.8 で導入された新機能と変更点を示します。

2.1 Cisco Meeting Server の新機能

このリリースでは、以下の新機能と変更点が導入されました。

- [Web アプリケーションセッションのタイムアウト](#)
- [Meeting Server でアンケートを有効にする](#)
- [Jabber プレゼンスを更新する](#)
- [coSpace にタグを追加する](#)
- [Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度を設定する](#)
- [callProfiles に名前を割り当てる](#)
- [Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信をサポート](#)
- [画面共有の改善](#)

2.1.1 Web アプリケーションセッションのタイムアウト

Web アプリケーションセッションのデフォルトのタイムアウト値は 24 時間です。バージョン 3.8 以降、管理者は Meeting Server でこの値を設定できます。セッションタイムアウトを時間単位で設定するための新しい MMP コマンド `callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours>` が追加されました。このコマンドの値の範囲は、1 ~ 24 です。

2.1.1.1 MMP の追加

コマンド/例	説明
<code>callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours></code>	Web アプリケーションのセッションタイムアウト (時間) を設定します。1 ~ 24 の整数を指定できます。設定しない場合のデフォルトは 24 です。
	注: Call Bridges を再起動して、変更を適用します。

2.1.2 Meeting Server でアンケートを有効にする

バージョン 3.8 には [アンケート (Surveys)] 機能が導入されています。Web アプリケーション会議の主催者は、参加者を招待して意見を共有することで、会議をよりインタラクティブにすることができます。

この機能は、コールレベルと参加者レベルで有効化できます。コールレベルで有効にすると、会議でアンケートを実施できるかどうかが決まり、参加者レベルで有効にすると、参加者がアンケートの作成/起動/削除/結果の表示を行えるかどうかが決まります。

2.1.2.1 API の追加

コールレベルで [アンケート (Surveys)] 機能を有効/無効にするための新しい API パラメータ **surveyAllowed** が導入されました。パラメータは、次の API メソッドでサポートされています。

- **/calls** に対する POST 操作
- **/calls/<call id>/** に対する PUT 操作
- **/calls/<call id>/** での GET 操作
- **/callProfiles** に対する POST 操作
- **/callProfiles/<call profile id>** に対する PUT 操作
- **/callProfiles/<call profile id>** での GET 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
surveyAllowed	true false	<p>True : 会議でのアンケートが許可され、参加者がアンケートに参加できることを示します。</p> <p>False : 会議でのアンケートが許可されていないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

さらに、参加者レベルで [アンケート (Surveys)] 機能を有効/無効にするための新しい API パラメータ **surveyOpsAllowed** が導入されました。パラメータは、次の API メソッドでサポートされています。

- **/calls/<call id>/callLegs** に対する POST 操作
- **/callLegs/<callLegId>** に対する PUT 操作
- **/callLegs/<callLegID>** での GET 操作
- **/calls/<call id>/participants** に対する POST 操作
- **/callLegProfiles** に対する POST 操作
- **/callLegProfiles/<call leg profile id>** での GET 操作
- **/callLegProfiles/<call leg profile id>** に対する PUT 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
SurveyOpsAllowed	true false	<p>True : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができることを示します。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

この機能は、MeetingApps サービスを介して実装されます。MeetingApps サービスのデプロイの詳細については、[『Cisco Meeting Server シングル分割導入ガイド』](#)を、MeetingApps の構成については、[『Cisco Meeting Server MMP ガイド』](#)を参照してください。

2.1.3 Jabber プレゼンスを更新する

2.1.3.1 Jabber ユーザー ステータス メッセージの機能強化

バージョン 3.8 では、Jabber ユーザーのプレゼンス ステータスメッセージが変更されています。バージョン 3.7 の以前のリリースでは、Jabber ユーザーが Web アプリケーションにサインインして会議に参加すると、Meeting Server によって Jabber ステータスが [会議中、通話中 (In a meeting, In a call)] に更新されました。バージョン 3.8 から、このステータスメッセージは [通話中 (On a call)] に変更されました。

Meeting Server がさらに改善され、Jabber ユーザーが Meeting Server Web アプリケーション会議に参加したときに適切な参加ステータスが表示されるようになりました。

以前のリリースと同様に、ユーザーが会議を終了すると、Meeting Server は以前のステータスに戻ります。Meeting Server は、次の場合、Jabber ステータスを更新しません。

- Web アプリの会議に参加しているときに Jabber ユーザーが別の会議/通話に参加している場合、Meeting Server は Jabber ステータスを更新しません。
- Jabber ユーザーが、ステータスを [サイレント - 応答不可 (DND - Do not disturb)] に設定しているか、手動で離籍中に設定している場合、Meeting Server は、Jabber ステータスを更新しません。
- ユーザーが Web アプリケーション会議中にいつでも手動で Jabber ステータスを更新できる場合、Meeting Server は手動で更新されたユーザーステータスを上書きしません。
- Meeting Server は、コンテンツ共有のプレゼンスを更新しません。

注 : Meeting Server は、TCP ポート 8083 を使用して IMP Server に接続します。IMP Server と Meeting Server Call Bridge の間にファイアウォールがある場合は、このポートを開いて通信を許可することをお勧めします。

2.1.3.2 Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP サーバー間のセキュアな通信を実現

バージョン 3.8 では、Meeting Server and Cisco Unified Communications Manager/IMP サーバー間

のセキュアな通信が可能です。これは、エンティティ間で CA 証明書バンドルをインストールして verify することで実現されます。

Meeting Server に Cisco Unified Communications Manager および IMPS の証明書をインストールして verify するための新しい MMP コマンドが導入されました。IMP Server の CUPS 証明書と Cisco Unified Communications Manager の Tomcat 証明書は、Meeting Server にアップロードして verify する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager および IMPS の証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

1. SFTP クライアントを使用して Meeting Server にログインし、認証局のバンドルファイルを Meeting Server にコピーします。
2. Meeting Server の MMP に SSH で接続します。
3. 次のコマンドを使用して、CUCM と IMPS の証明書を割り当てます。

- a. Cisco Unified Communications Manager の場合 :

```
callbridge ucm certs <cert-bundle>
```

- b. IMPS の場合 :

```
callbridge imps certs <cert-bundle>
```

注 : Meeting Server から Cisco Unified Communications Manager または IMPS 証明書を削除するには、MMP コマンド **callbridge ucm certs none** または **callbridge imps certs none** をそれぞれ使用します。

IMPS の TLS 証明書を確認するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを使用して、Cisco Unified Communications Manager および IMP サーバーの TLS verify を有効または無効にできます。

1. Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS verify を有効または無効にするには、次のコマンドを使用します。
callbridge ucm verify <enable/disable>
2. Meeting Server と IMPS 間の TLS verify を有効または無効にするには、次のコマンドを使用します。
callbridge imps verify <enable/disable>
3. Call Bridges を再起動して、コマンドを使用して変更を適用します。
callbridgerestart
4. MMP コマンドを使用して Cisco Unified Communications Manager サービスを確認できます。
callbridge imps <hostname/IP> <presence_user> presence_service status

同様に、Meeting Server の Callbridge 証明書バンドルは、IMP Server の CUPS トラストストアおよび Cisco Unified Communications Manager の Tomcat トラストストアにアップロードする必要があります。

2.1.3.3 MMP の追加

コマンド/例	説明
<code>callbridge ucm certs <cert- bundle></code>	Cisco Unified Communications Manager の CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge ucm verify <enable/disable></code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS verify を有効または無効にします。
<code>callbridge ucm certs none</code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS verify 用に追加された証明書を削除します。
<code>callbridge imps certs <cert- bundle></code>	IMP サーバーに CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge imps verify <enable/disable></code>	Meeting Server と IMP サーバー間の TLS verify を有効または無効にします。
<code>callbridge imps certs none</code>	Meeting Server と IMP サーバー間の TLS verify 用に追加された証明書を削除します。

2.1.4 coSpace にタグを追加する

バージョン 3.8 以降、Meeting Management ビデオオペレータは、関連付けられているこれらの会議とスペースへのアクセスのみを許可されます。管理者は、Meeting Server API の各 CoSpace にタグを追加することでこの機能を有効にできます。このタグは、Meeting Management がそれぞれの会議スペースを取得するために使用します。Meeting Management でビデオオペレータに割り当てられたこれらのタグによって、アクセスできるスペースまたは会議が決まります。

この機能をサポートするために、**coSpaces** API に新しい API パラメータが導入されました。管理者は、**coSpaces** API を作成または変更する際に、タグに任意の名前を設定できます。各 coSpace に設定できるタグは 1 つだけです。ただし、同じタグ名を複数の CoSpace に追加できます。

注： Meeting Management で進行中の会議中に coSpace に追加または変更されたタグは、後続の会議/セッションからのみ反映されます。

2.1.4.1 API の追加

新しい API パラメータ **spaceTag** が **coSpaces** API に追加されました。このパラメータは、次のメソッドでサポートされています。

/coSpaces/ に対する POST 操作

/coSpaces/<coSpace ID> に対する PUT 操作

/coSpaces での GET 操作

/coSpace/<coSpace ID> での GET 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
spaceTag	文字列	特定の CoSpace に付与されたタグの名前。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大 10 文字です。

2.1.5 Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度を設定する

バージョン 3.8 には、Web アプリケーション会議でコンテンツを共有する際に、プレゼンターの画面の最大解像度を設定するオプションがあります。ただし、ネットワークの状態が変化する場合、画面の解像度は利用可能な帯域幅に基づいて調整されますが、指定された最大制限を超えることはありません。たとえば、制限が 720p に設定されている場合、送信者の画面共有解像度は 720p より低くできますが、720p を超えることはできません。

画面解像度は、720p、1080p、または無制限に設定できます。[制限なし (Unrestricted)] を選択すると、ブラウザに依存してコンテンツ共有の解決方法が設定されます。

この機能は、 **webBridgeProfiles** API の新しい **contentResolution** parameter を使用して導入されています。

2.1.5.1 API の追加

新しい API パラメータ **contentResolution** を **webbridgeProfile** API に追加されます。このパラメータは、**/webBridgeProfiles/** の POST、PUT、GET メソッドでサポートされています。

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
contentResolution	720p 1080p unrestricted	Web アプリケーションでコンテンツを共有する際のプレゼンター画面の最大解像度。

2.1.6 callProfiles API に名前を割り当てる

バージョン 3.8 から、システム管理者は、名前で **callProfiles** を検索して取得できます。これにより、自動生成された長い文字列である **callProfile ID** に対して名前を使用して、必要な **callProfiles** を簡単に検索できるようになります。

callProfiles API が拡張され、作成された各 **callProfiles** の **name** パラメータが含まれるようになりました。**callProfile** を作成または変更する際に、新しいパラメータを使用して任意の名前を割り当てることができます。このパラメータの最大長は 200 文字です。Meeting Server Web インターフェイスの **callProfiles** API に、**name** 属性を使用して **callProfile** を検索するための新しいフィルタオプションが追加されました。

2.1.6.1 API の追加

callProfiles API に、新しい **name** API パラメータが導入されました。このパラメータは、次のメソッドでサポートされています。

/callProfiles/ に対する POST 操作

/callProfiles/<call profile id> に対する PUT 操作

`/callProfiles/<call profile id>/` での GET 操作

`/callProfiles/` での GET 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
name	文字列	<code>callProfiles</code> の名前。

2.1.7 Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信をサポート

バージョン 3.8 では、Web アプリケーション会議中に特定の参加者にチャットメッセージを送信できるようになりました。以前は、Web アプリケーションの参加者がメッセージを送信して会議の全員にブロードキャストすることができました。このリリースでは、Web アプリケーションの参加者は、会議の全員にメッセージを送信するか、特定の参加者にメッセージを送信するかを選択できます。

Web アプリケーションでこの機能をサポートするには、既存の API パラメータである `chatAllowed` と `chatContributionAllowed` を使用します。この機能は、Web アプリケーションのみでサポートされています。

2.1.7.1 API の追加

`chatAllowed` リクエストパラメータは、コールレベルでチャットを有効または無効にするために使用します。このパラメータは、次の API 操作でサポートされています。

- `/calls` に対する POST 操作
- `/calls/<call id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>` での GET 操作
- `/callProfiles` に対する POST 操作
- `/callProfiles/<call profile id>` に対する PUT 操作
- `/callProfiles/<call profile id>` での GET 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
chatAllowed	true false	値が指定されている場合、このコールプロファイルを使用してこのコールでチャットを許可するかどうかを決定します。

さらに、管理者は、`chatContributionAllowed` パラメータを使用して、特定のコールの参加者がチャットメッセージを送信できるきめ細かいレベルで制御できます。このパラメータは、次の API 操作でサポートされています。

- `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `/callLegs/<call leg id>` での GET 操作
- `/callLegs/<call leg id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作
- `/callLegProfiles` に対する POST 操作

- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` に対する PUT 操作
- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` での GET 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ
chatContributionAllowed	true false	値が指定されている場合、このコールレグ/この参加者 /callLegProfile を使用したコールレグがチャットでメッセージを送信できるかどうかを決定します。

2.1.8 画面共有の改善

Meeting Server が改善され、Web アプリケーション会議での画面共有/プレゼンテーションの品質が向上しました。プレゼンテーションの共有中に Chrome からのキープアライブパケットを処理し、プレゼンテーションの共有に起因するパケット損失を削減するための機能強化が行われました。さらに、H.264 エンコーダの MaxQp 値が変更され、画像とビデオの品質が向上しています。

2.2 API の追加および変更の概要

Meeting Server 3.8 の API 機能には、次の新しい API パラメータが含まれています。

callProfile API を名前で検索するための新しい API パラメータが追加されました。

- `name` が、以下に導入されました。
 - `/callProfiles/` に対する POST 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>` に対する PUT 操作
 - `/callProfiles/` での GET 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>/` での GET 操作

Web アプリケーション会議でプレゼンターの画面の最大解像度を設定するための新しい API パラメータが追加されました。

- `contentResolution` パラメータが以下に導入されました。
 - `/webBridgeProfiles/` での POST、PUT、GET メソッド

CoSpace にタグを追加するための新しい API パラメータが追加されました。

- `spaceTag` パラメータが以下に導入されました。
 - `/coSpaces` に対する POST 操作
 - `/coSpaces/<coSpace ID>` に対する PUT 操作
 - `/coSpaces` での GET 操作
 - `/coSpace/<coSpace ID>` での GET 操作

Web アプリケーションで [アンケート (Surveys)] 機能を有効にするための新しい API パラメータが追加されました。

- **surveyAllowed** が以下に導入されました。
 - **/calls** に対する POST 操作
 - **/calls/call id/** に対する PUT 操作
 - **/calls/call id/** での GET 操作
 - **/callProfiles** に対する POST 操作
 - **/callProfiles/<call profile id>** に対する PUT 操作
 - **/callProfiles/<call profile id>** での GET 操作
- **SurveyOpsAllowed** が以下に導入されました。
 - **/calls/<call id>/callLegs** に対する POST 操作
 - **/callLegs/<callLeg ID>** での GET 操作
 - **/callLegs/<callLeg ID>** に対する PUT 操作
 - **/calls/<call id>/participants** に対する POST 操作
 - **/callLegProfiles** に対する POST 操作
 - **/callLegProfiles/<call leg profile id>** での GET 操作
 - **/callLegProfiles/<call leg profile id>** に対する PUT 操作

特定の参加者にチャットメッセージを送信できるように API パラメータを強化

- **chatAllowed:**
 - **/calls** に対する POST 操作
 - **/calls/<call id>** に対する PUT 操作
 - **/calls/<call id>** での GET 操作
 - **/callProfiles** に対する POST 操作
 - **/callProfiles/<call profile id>** に対する PUT 操作
 - **/callProfiles/<call profile id>** での GET 操作
- **chatContributionAllowed:**
 - **/calls/<call id>/participants** に対する POST 操作
 - **/calls/<call id>/callLegs** に対する POST 操作
 - **/callLegs/<call leg id>** での GET 操作
 - **/callLegs/<call leg id>** に対する PUT 操作

- `/callLegProfiles` に対する POST 操作
- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` に対する PUT 操作
- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` での GET 操作

2.3 MMP の追加および変更の概要

バージョン 3.8 では、このセクションで説明する MMP の追加をサポートしています。

Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP サーバー間のセキュアな通信を実現

Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP Server 間の TLS verifyに使用するコマンドを以下に示します。

コマンド/例	説明
<code>callbridge ucm certs <cert- bundle></code>	Cisco Unified Communications Manager の CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge ucm verify <enable/disable></code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS verifyを有効または無効にします。
<code>callbridge ucm certs none</code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS verify用に追加された証明書を削除します。
<code>callbridge imps certs <cert- bundle></code>	IMP サーバーに CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge imps verify <enable/disable></code>	Meeting Server と IMP サーバー間の TLS verifyを有効または無効にします。
<code>callbridge imps certs none</code>	Meeting Server と IMP サーバー間の TLS verify用に追加された証明書を削除します。

Web アプリケーション セッション タイムアウトの構成

管理者は、次のコマンドを使用して、Web アプリケーション セッションのタイムアウトを時間単位で設定できます。

コマンド/例	説明
<code>callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours></code>	<p>Web アプリケーションのセッションタイムアウト（時間）を設定します。 1 ~ 24 の整数を指定できます。設定しない場合のデフォルトは 24 です。</p> <hr/> <p>注：変更を適用するには、Call Bridge を再起動します。</p>

関連するユーザーマニュアル

以下のサイトに、インストール、計画と導入、初期設定、製品の操作などに関するドキュメントが掲載されています。

- リリースノート（最新および以前のリリース）：
https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-release-notes-list.html
- インストールガイド（VM のインストール、Meeting Server 2000、インストール アシスタントの使用を含む）：https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-installation-guides-list.html
- 設定ガイド（展開プランと展開、証明書ガイドライン、簡素化されたセットアップ、ロードバランシングのホワイトペーパー、管理者向けクイック リファレンス ガイドを含む）：
https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-installation-and-configuration-guides-list.html
- プログラミングガイド（API、CDR、イベント、MMP リファレンスガイド、カスタマイズガイドラインなど）：
https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-programming-reference-guides-list.html
- オープンソースライセンスの情報：
https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-licensing-information-listing.html
- Cisco Meeting Server の FAQ：<https://meeting-fohub.cisco.com/faq/category/25/cisco-meeting-server.html>
- Cisco Meeting Server の相互運用性データベース：<https://tp-tools-web01.cisco.com/interop/d459/s1790>

3 Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.8 をアップグレード、ダウンロード、展開する

このセクションでは、Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.7 からアップグレードすることを前提としています。それよりも前のバージョンからアップグレードする場合は、この Cisco Meeting Server 3.8 リリースノートの手順を実行する前に、3.7 リリースノートの手順を実行して 3.7 に更新します。これは、Meeting Server に接続している Cisco Expressway がある場合は特に重要です。

注: Cisco は、3.7 以前のソフトウェアリリースからのアップグレードをテストしていません。

Cisco Meeting Server 2000、Cisco Meeting Server 1000、または以前に設定された VM 展開にインストールされている Cisco Meeting Server ソフトウェアのバージョンを確認するには、MMP コマンドバージョンを使用します。

VM を初めて設定する場合は、[『Cisco Meeting Server 仮想化導入のインストールガイド』](#)の指示に従ってください。

3.1 リリース 3.8 へのアップグレード

このセクションの手順は、クラスタ化されていない Meeting Server 展開に適用されます。クラスタ化されたデータベースを使用した導入については、クラスタ化されたサーバをアップグレードする前に、この [FAQ](#) の指示をお読みください。

注意 : Meeting Server をアップグレードまたはダウングレードする前に、`backup snapshot <filename>` コマンドを使用して設定のバックアップを作成し、バックアップファイルを別のデバイスに安全に保存する必要があります。詳細については、[『MMP コマンドリファレンスガイド』](#)を参照してください。アップグレード/ダウングレードプロセスが生成した自動バックアップファイルに依存しないでください。アップグレード/ダウングレードが失敗した場合にアクセスできない可能性があります。

注 : クラスタ化されたデータベースを展開している場合は、Meeting Server をアップグレードする前に、`database cluster remove` コマンドを使用してすべてのノードのクラスタ化を解除します。ユーザーは、ノードのクラスタ化を解除して Meeting Server をアップグレードし、MMP コマンドを使用してノードをクラスタ化する必要があります。手順の詳細については、[「クラスタのアップグレードに関する FAQ」](#)を参照してください。

ファームウェアのアップグレードは 2 段階のプロセスです。最初に、アップグレードされたファームウェアイメージをアップロードします。次に、アップグレードコマンドを発行します。これによりサーバーが再起動します。再起動プロセスでは、サーバーで実行されているすべてのアクティブコールが中断します。したがって、ユーザーに影響を与えることがないように、この段階は適切なタイミングで実行する必要があります。そうでない場合、ユーザーに事前に警告する必要があります。

セカンダリ サーバをインストールするには、次の手順に従います。

1. アップグレードするには、適切なアップグレードファイルをシスコの Web サイトの「[ソフトウェアダウンロード](#)」ページから取得します。

Cisco_Meeting_Server_3_8_CMS2000.zip

このファイルは、サーバーにアップロードする前に単一の upgrade.img ファイルに解凍する必要があります。このファイルを使用して、Cisco Meeting Server 2000 サーバをアップグレードします。

upgrade.img ファイルのハッシュ (SHA-256) :

44b262e289550e2a2ac8042a2a3e0c30f337a52e72bbbfe91c2cb36537b14567

Cisco_Meeting_Server_3_8_vm-upgrade.zip

このファイルは、サーバーにアップロードする前に単一の upgrade.img ファイルに解凍する必要があります。このファイルを使用して、Cisco Meeting Server 仮想マシンの展開をアップグレードします。

upgrade.img ファイルのハッシュ (SHA-256) :

7120df4aa7aefe07c27e316dcf24f2862e74ee1b6a9d668ea73c0492d35ab42

Cisco_Meeting_Server_3_8.ova

このファイルを使用して、VMware から新しい仮想マシンを展開します。

vSphere7.0 以上の場合、Cisco_Meeting_Server_3_8_vSphere-7_0.ova のハッシュ (SHA-512) :

5a350ff84abb8ccc136e164ccfd3f112c35f4900d4a9b15eb9d29f25ab32baf6b497c4644e888865cb590fb4
118a7483f73454f94ab3a2c645874031a22cf971

2. OVA ファイルをverifyするために、ダウンロードの説明にカーソルを合わせると表示されるポップアップボックスに、3.8 リリースのチェックサムが表示されます。さらに、上記の SHA-512 ハッシュ値を使用して、ダウンロードの整合性を確認することもできます。

注 : VMware は ESXi 6.x バージョンのサポートを終了しており、Meeting Server は 6.x バージョンではテストされません。このリリースは、ESXi 7.0.x のみをサポートします。今後のリリースでは、ESXi 8.0 のサポートが追加される予定です。

3. SFTP クライアントを使用して、IP アドレスを使用して MMP にログインします。ログイン資格情報は、MMP 管理者アカウントに設定された資格情報になります。Windows を使用している場合、WinSCP ツールの使用をお勧めします。

注 : ファイル転送に WinSCP を使用している場合、転送設定オプションが「テキスト」ではなく「バイナリ」であることを確認してください。誤った設定を使用すると、転送されたファイルが元のファイルよりもわずかに小さくなり、アップグレードが正常に行われなくなります。

(注) :

a) MMP のインターフェイスの IP アドレスは、**iface a** MMP コマンドで確認できます。

b) SFTP サーバは、標準ポート 22 で実行されます。

4. ソフトウェアをサーバー/仮想化サーバーにコピーします。

5. アップグレードファイルをverifyするには、**upgrade list** コマンドを発行します。
 - a. MMP への SSH 接続を確立し、ログインします。
 - b. **upgrade list** コマンドを実行して、使用可能なアップグレード イメージとそのチェックサムを出力します。
upgrade list
 - c. このチェックサムが上記のチェックサムと一致していることを確認します。
6. アップグレードを適用するには、前の手順の MMP への SSH 接続を使用し、**upgrade** コマンドを実行してアップグレードを開始します。
 - a. **upgrade** コマンドを実行して、アップグレードを開始します。
upgrade <image_name>.img。例 : **upgrade upgrade_spa.img**
 - b. サーバー/仮想化サーバーは自動的に再起動します。処理が完了するまで 10 分かかります。
7. MMP への SSH 接続を再確立し、次を入力して、Meeting Server がアップグレードされたイメージを実行していることを確認します。
version
8. 利用可能な場合は、カスタマイズアーカイブファイルを更新します。
9. アップグレードが完了しました。

3.2 ダウングレード

アップグレード処理中またはアップグレード処理後に予期しないことが発生した場合は、以前のバージョンの Meeting Server ソフトウェアに戻すことができます。通常のアップグレード手順を使用して、MMP **upgrade** コマンドを使用して、Meeting Server を必要なバージョンに「ダウングレード」します。

1. ソフトウェアをサーバー/仮想化サーバーにコピーします。
2. ダウングレードを適用するには、MMP への SSH 接続を使用し、**upgrade <filename>** コマンドを実行してダウングレードを開始します。

サーバー/仮想サーバーが自動的に再起動します。プロセスが完了し、サーバーのダウングレード後に Web 管理が使用可能になるまで 10 ~ 12 分かかります。
3. Web 管理画面にログインし、[ステータス (Status)] > [全般 (General)] に移動して、[システムステータス (System status)] の下に新しいバージョンが表示されていることを確認します。
4. サーバで MMP コマンド **factory_reset app** を使用し、工場出荷時設定からの再起動を待ちます。
5. MMP コマンド **backup rollback <name>** を使用して、古いバージョンの設定バックアップを復元します。

注 : backup rollback コマンドは、既存の設定、cms.lic ファイル、およびシステム上のすべての証明書と秘密キーを上書きし、Meeting Server を再起動します。したがって、注意して使用する必要があります。バックアップのロールバック プロセス中に上書きされるため、既存の cms.lic ファイルと証明書を事前にコピーしてください。.JSON ファイルは上書きされないため、上書きする必要はありません

Meeting Server が再起動して、バックアップ ファイルが適用されます。

クラスタ展開の場合、クラスタ内の各ノードに対して手順 1 ~ 5 を繰り返します。

6. 最後に、次のことを確認してください。

- 各 Call Bridge の Web 管理インターフェイスで coSpaces のリストを表示できる
- ダイアル プランが無傷である
- Web 管理およびログ ファイルに障害状態が報告されていない
- SIP およびシスコ会議アプリケーション (サポートされている場合は Web Bridge) を使用して接続できる

これで、Meeting Server のダウングレード展開は完了です。

3.3 Cisco Meeting Server の展開

Meeting Server の展開方法の説明をシンプルにするため、3 つのモデルで展開を説明します。

- 単一統合型 Meeting Server : すべての Meeting Server コンポーネント (Call Bridge、Web Bridge 3、データベース、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、TURN サーバー) が使用可能です。Call Bridge とデータベースは自動的に有効化されますが、それ以外のコンポーネントは展開の必要性に応じて個別に有効化することができます。有効化されたすべてのコンポーネントが単一のホストサーバー上に存在します。
- 単一分散型 Meeting Server : このモデルでは、DMZ 内のネットワーク エッジに配置された Meeting Server 上で TURN サーバー、Web Bridge 3 および MeetingApps が有効化され、それ以外のコンポーネントは内部 (コア) ネットワークに配置された別の Meeting Server 上で有効化されます。
- 3 つ目のモデルでは、展開環境の拡張性と復元力を高めるため、複数の Meeting Server をまとめてクラスタ化して展開します。

これらの 3 つのモデルすべてを網羅した導入ガイドは、[こちら](#)で参照できます。個々の導入ガイドには、別に証明書ガイドラインのドキュメントが付属しています。

3.3.1 注意点：

3.3.1.1 Cisco Meeting Server 2000

Cisco Meeting Server 2000 には、Call Bridge、Web Bridge 3、およびデータベース コンポーネントのみが含まれます。これは、単一のサーバとして、または複数のサーバのカスケードとして、内部ネットワークに展開するのに適しています。Cisco Meeting Server 2000 は DMZ ネットワークに展開しないでください。外部の Cisco Meeting Server Web アプリケーション ユーザ向けにファイアウォールトラバーサルのサポートが必要な場合は、代わりに次のいずれかも展開する必要があります。

- 内部ネットワークに Cisco Expressway-C、DMZ に Expressway-E、または
- TURN サーバーを有効にして、DMZ に別個の Cisco Meeting Server 1000 または仕様ベースの VM サーバーを展開します。

3.3.1.2 Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバー

- Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバーは、Cisco Meeting Server 2000 よりもコールキャパシティは少なくなりますが、すべてのコンポーネント（Call Bridge、Web Bridge 3、データベース、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、TURN サーバー）を各ホストサーバー上で使用できます。Web Bridge 3、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、および TURN サーバーは、稼働前に有効化する必要があります。
- OVA を vCenter にアップロードしてデプロイすると、[発行元 (Publisher)] フィールドに [Trusted certificate (信頼できる証明書)] と表示されます。OVA のインポート時に、無効な証明書と信頼できない証明書に関する警告が表示された場合は、こちらの記事 (<https://kb.vmware.com/s/article/84240>) を参照してください。OVA への署名に使用された証明書に対応する中間証明書とルート証明書を VECS ストアに追加する必要がある場合があります。中間証明書またはルート証明書の取得、またはその他の問題については、[シスコテクニカルサポート](#) にお問い合わせください。

4 Cisco Meeting Server Web アプリケーション

本書のこのセクションでは、Cisco Meeting Server Web アプリケーションのこのリリースの新機能や変更点について記載されています。

4.1 Cisco Meeting Server Web アプリケーションの新機能

Web アプリソフトウェアのこのバージョンでは、以下の新機能と変更が導入されています。

- [会議でコンテンツ共有を最適化する](#)
- [会議中にアンケートを作成する](#)
- [仮想背景のパフォーマンスが向上](#)
- [会議中のプライベートチャット](#)
- [チェコ語のサポート](#)
- [UI 変更](#)
- [アクセシビリティの向上](#)

4.1.1 会議でコンテンツ共有を最適化する

バージョン 3.8 では、Web アプリケーションユーザーは、Web アプリケーション会議でコンテンツを共有しながら、画面解像度を柔軟に最適化できます。この機能を実装するために、**[テキストの最適化 (Optimize for Text)]** がセルフビューの設定メニューの **[共有 (Sharing)]** セクションに追加されます。

画面共有中に、参加者がこのオプションをチェックすると、Web アプリケーションは、Meeting Server で管理者が設定した画面共有解像度をオーバーライドし、画面が 1080p 解像度で共有されます。オフのままにすると、コンテンツは管理者が設定した解像度に従って共有されます。変更されるまで、**[テキスト用に最適化 (Optimize for Text)]** の設定が保存され、以降の会議で使用されます。

注：画面解像度を有効にするには、参加者は、**[テキストを最適化 (Optimize for Text)]** を選択した後の画面の共有を開始する必要があります。また、Web アプリケーションは、画面共有を再開するように画面にメッセージを表示して参加者に通知します。

注：画面の解像度は、画面の共有中に送信者の画面にのみ設定されます。

4.1.2 会議中にアンケートを作成する

バージョン 3.8 以降では、適切な権限を持つ参加者が Web アプリケーションを使用して会議中にアンケートを作成できるようになりました。新しいアンケートアイコンが、会議中にアンケートを作成して参加するための会議中メニューオプションとしてサイドパネルに追加されました。

注：ミーティングサーバーでアンケートアイコンが参加者に表示されるのは、ミーティングに対してこの機能が有効になっている場合のみです。

アンケートは会議の主催者が作成して開始できます。Web アプリ会議では、一度にアクティブにできるアンケートは 1 つのみです。各アンケートには最大 5 つの質問を含めることができます。各質問には、最低 2 つ、最大 4 つの選択肢があり、参加者はそのうちの 1 つを選択する必要があります。複数の回答を入力したり、自由形式のテキストで回答したりすることはできません。

[アンケート (Surveys)] アイコンの赤い点は、新しいアンケートがアクティブであることを示します。会議の主催者がアンケートを開始すると、Web アプリケーションは会議の参加者にも通知します。

アンケートを作成するには、サイドペインで **[アンケート (Surveys)]** を選択します。

- **[アンケートダッシュボード (Survey Dashboard)]** > **[アンケートの作成 (Create survey)]** の順に選択します。アンケートのタイトル、質問、およびオプションを入力し、**[保存 (Save)]** を選択します。

注：二重引用符" は、アンケートのタイトル、質問、オプションには使用できません。
" が使用されている場合は、参加者は、新しいアンケートを保存したり、作成したりできません。

- **[起動 (Launch)]** を選択して、保存したアンケートをアクティブ化します。
参加者は、会議の主催者によって開始された場合にのみ、アンケートを表示できます。

会議の主催者：

適切な権限を持つ会議の主催者は、アンケートを作成し、アンケート結果を表示できます。

- Web アプリケーション会議には、複数の主催者を含めることができます。アンケートの作成者以外の主催者もアンケートに参加できます。
- アンケートを保存/編集/削除/起動/終了できるのは、アンケートを作成した主催者のみです。アンケートを開始すると、他の主催者は進行中のアンケートを終了して結果を確認するしかできません。
- 組織は、複数のアンケートを作成して、次回の会議中に使用するために保存できます。
- 会議の主催者がアンケートを作成して起動した後、会議から切断された場合、主催者は会議に再参加し、進行中/保存済みのアンケートに対して引き続きすべてのアクションを実行できます。

会議の主催者は、[アンケート (Surveys)] ウィンドウで次のアクションを実行できます。

アイコン	説明	誰が使用できますか？
	アンケートの起動 (Launch survey) : 保存済みアンケートを起動します。	アンケートを作成した会議の主催者。
	アンケートの終了 (End survey) : 継続的なアンケートを終了します。	会議の主催者のいずれか。 アンケートの終了後、すべての主催者が結果を確認できます。
	アンケート結果の表示 (View results) : アンケート結果を表示します。	主催者は、参加者の氏名やアンケートで選択した選択肢を特定することはできません。 注：アンケートの回答は匿名です。 主催者は、参加者の氏名やアンケートで選択した選択肢を特定することはできません。
	編集 (Edit) : アンケートの質問とオプションを編集します。	アンケートを作成した会議の主催者。 注：アンケートの編集は、アンケートを開始する前にのみ可能です。
	削除 (Delete) : 質問、オプションまたはアンケートを削除します。	アンケートを作成した会議の主催者。

参加者：

参加者は、アンケートに参加するかどうかを選択できます。アンケートに参加するには、[アンケート(Surveys)] > [アンケートの実施 (Take Survey)] を選択し、質問のオプションから必要な回答を選択します。[回答を送信 (Submit your response)] を選択して提出します。

- 参加者は、質問に対して提供されているオプションからのみ選択できます。フリーテキストの入力と複数のオプションの選択はサポートされていません。
- アンケートの提出後、参加者は、選択したオプションや選択肢の変更はできません。
- 参加者は、アンケートの開始後に会議に参加/再参加しても、終了するまでいつでもアンケートに参加できます。
- 会議に複数の主催者がいる場合、アンケートを作成した主催者はアンケートに参加できません。ただし、他の主催者はアンケートに参加できます。
- サインインしているユーザーとは別に、ゲストもアンケートに参加できます。

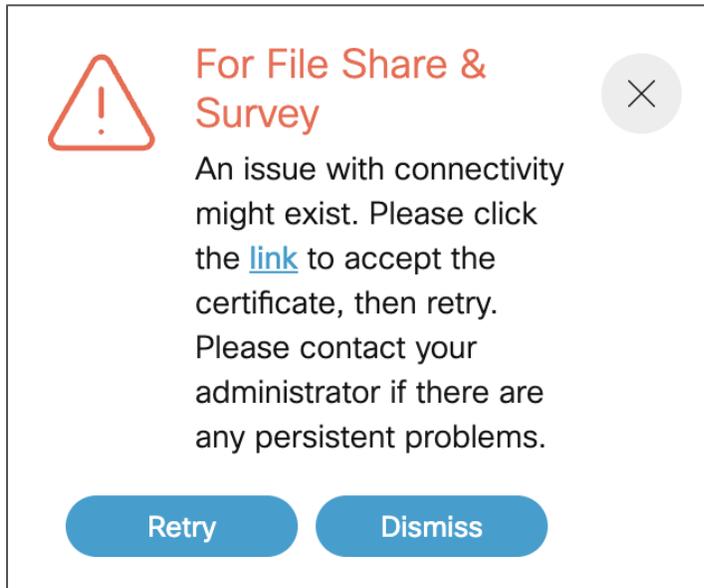
Meeting Server で SurveyAllowed API が true に設定されている場合、Web アプリケーションの参加者に [調査 (Surveys)] アイコンが表示されます。SurveyOpsAllowed API が true に設定されている参加者は、会議中にアンケートを作成し、結果を表示できます。詳細については、『Cisco Meeting Server API ガイド』を参照してください。

4.1.2.1 アンケートとファイル共有機能に関する重要事項

証明書がverifyされていない場合、またはサービスに到達できない場合は、アンケートやファイル共有などの Web アプリケーションの会議中の機能が意図したとおりに動作しない可能性があります。このようなシナリオでは、Web アプリケーションに警告メッセージが表示されます。警告メッセージにあるリンクから、Web アプリケーションユーザーは証明書をverifyすることができます。

注：参加者がブラウザで初めて新しい Web アプリケーション機能を使用する場合にのみ、

証明書をverifyする必要があります。



Web アプリ会議中に上記のエラーが表示された場合は、

1. ポップアップに表示されるリンクをクリックします。
2. 接続がある場合は、新しいタブが開き、{"ping": "pong!"} と表示されます。
3. Web アプリケーションタブを開き、ポップアップで **[再試行 (Retry)]** を選択してサービスを回復します。

問題が解決しない場合は、Meeting Server 管理者にお問い合わせください。

4.1.3 仮想背景のパフォーマンスが向上

[仮想背景 (Virtual Background)] 機能を有効にすると、Web アプリケーション参加者は、会議中に背景を変更したりぼやかすことができます。バージョン 3.8 では、アップグレードされた最新のビデオ AI ライブラリの助けを借りて、仮想背景/ぼかしのパフォーマンスがさらに向上しています。これにより、仮想背景/ぼかしの適用が高速化され、参加者のビデオのピクセル化が減少します。

この機能は、Windows および macOS デバイスの Google Chrome、Mozilla Firefox、および Microsoft Edge ブラウザでサポートされています。

注：

- 仮想背景は、Graphics Processing Unit (GPU) 搭載システムで最適に機能します。
 - アップグレードされたライブラリは、Web アプリに対してのみ実装されます。SIP 参加者は、エンドポイントでローカルに使用可能なイメージを適用できます。
-

4.1.4 会議中のプライベートチャット

[チャット (Chat)] 機能を使用すると、Web アプリケーション参加者は、同じ会議に参加している他の参加者にメッセージを送信できます。以前のバージョンの Web アプリケーションでは、チャットメッセージは会議に参加しているすべての参加者にブロードキャストされ、プライベートではありませんでした。バージョン 3.8 以降、Web アプリの参加者は、チャットウィンドウの [宛先： (To:)] ドロップダウンオプションを使用して、チャットメッセージを会議の全員に送信するか、特定の参加者に送信するかを選択できます。

会議の他の参加者は、送信者と受信者の間で行われたプライベートチャットを見ることはできません。チャットメッセージは会議中のみ利用でき、会議の前後は利用できません。参加者が会議から退出したり、再度参加した場合、またはブラウザを更新した場合は、チャットメッセージは消えます。管理者は、[チャット (Chat)] 機能を有効にできる通話と、チャットメッセージを送信できる参加者を制御できます。

注： この機能は **Web** アプリでのみサポートされているため、チャットウィンドウの [宛先： (To:)] ドロップダウンリストには **Web** アプリの参加者のみが表示されます。

Meeting Server の **CallProfiles** で **chatAllowedAPI** が true に設定されている場合、会議に参加しているすべての Web アプリ参加者は、チャットウィンドウのドロップダウンオプションを見ることができます。詳細については、『Meeting Server API ガイド』を参照してください。

4.1.5 チェコ語のサポート

以前のバージョンでは、Web アプリケーションは 22 言語でサポートされていました。バージョン 3.8 から、Web アプリケーションはチェコ語もサポートします。現在ユーザーは、Web アプリケーションの言語リストで、**Čeština** を選択できます。

4.1.6 UI 変更

バージョン 3.8 から、以前は [設定 (Settings)] オプションにあった [ビデオ切り替え (video toggle)] アイコンが、簡単にアクセスできるようにマイク切り替えアイコンの横に移動しました。

4.1.7 アクセシビリティの向上

バージョン 3.8 では、Web アプリケーションは次のアクセシビリティの改善をサポートしています。

- ユーザーは、キーボードの上下の矢印キーを使用して、スペース、参加者、会議中のメニューパネルなどのリスト間を移動できるようになりました。
- スクリーンリーダーは、画面に表示されているすべてのタイトル、通知、警告、ステータスメッセージを読み上げるようになりました。

4.2 Web アプリケーションを使用する

Web アプリケーションでは、スペースで音声とビデオを使用して会議に参加することができます。会議で画面またはプレゼンテーションを共有することもできます。

スペースに対するメンバーの追加または削除を実行できます。また、組織内外のユーザーを会議に招待することもできます。

注：スペースとは、ユーザーのグループが会議のためにいつでも使用できる永続的な仮想会議室です。詳細については、Web アプリケーションのオンラインヘルプまたはユーザガイドを参照してください。

デスクトップ、モバイル デバイス、またはタブレットで、サポートされている任意のブラウザから Web アプリケーションを使用できます。詳細については、[「ブラウザの一覧」](#)をご確認ください。

Web アプリケーションを使用する詳細な手順については、Cisco Meeting Serverweb アプリケーションのオンライン ヘルプまたはユーザガイドを参照してください。

必要に応じて、次のいずれかのオプションを選択できます。

- Web アプリケーションにサインイン (Sign in to the web app) : Web アプリケーションにサインインして、会議への参加、メンバーになっているすべてのスペースのリストの表示、参加方法の表示を行えるほか、招待の詳細情報をコピーして会議に招待することができます。適切なアクセス権限を持っている場合は、事前設定済みのテンプレートを使用してスペースを作成し、スペースを編集または削除することができます。
- 会議に参加 (Join a meeting) : 会議に招待された場合は、このオプションを使用します。招待には、会議 ID、パスコード (任意) 、またはビデオ アドレス (URI) などの詳細情報を含める必要があります。
- 会議をスケジュールする (Schedule a meeting) : 会議をスケジュールするには、ホームページで [会議をスケジュール (Schedule meeting)] をクリックします。名前を入力し、会議に使用するスペースを選択します。会議は、1 つのインスタンスでスケジュールすることも、毎日、| 毎週、または毎月繰り返すようにスケジュールすることもできます。選択したスペースのすべてのメンバーを追加するか、選択した参加者を追加して、会議の役割を構成できます。

4.3 テスト済のブラウザバージョン

表 2 に、特定のバージョンの Web アプリケーションのリリース時に Web アプリケーションについてテストされたブラウザの一覧を示します。

ブラウザの最新バージョンを使用することを常に推奨します。

注：Google Chrome や Mozilla Firefox などの特定のブラウザは、最新バージョンに自動的に更新されることに注意してください。次の表は、Cisco Meeting Server のバージョンの正式リリース時にテストされたバージョンのブラウザを示しています。これは、以前のバージョンのブラウザでこの特定のリリースをテストしていないことを意味します。

弊社では、すべてのブラウザの最新の公開バージョンに対して、Cisco Meeting Server の各メジャーリリースの最新メンテナンス リリースをテストして、すべてのリリースを互換性のある状態に保ち、問題を検出した場合にはできるだけ早期に修正するように努力しております。

表 2：ブラウザとバージョンについてテスト済みの Cisco Meeting Server Web アプリケーション

ブラウザ	バージョン
Google Chrome (Windows、macOS、および Android)	116.0.5845.140
Mozilla Firefox (Windows)	116.0.3
Chromium ベースの Microsoft Edge (Windows)	116.0.1938.62
macOS 用 Apple Safari	16.6 (18615.3.12.11.2)
iOS 用 Apple Safari	16.6
Yandex (Windows)	23.7.3.823

注：Web アプリケーションは、レガシーの Microsoft Edge ではサポートされていません。

注：これらのサポートされているブラウザを実行している仮想マシン (VM) では、Web アプリはサポートされていません。

(欠落または不正なスニペット) (欠落または不正なスニペット)

4.3.1 Safari ブラウザのアクセシビリティ設定に関する重要事項

デフォルトでは、Safari ブラウザで Tab キーを使用して UI 要素を移動することができませんが、代わりに Option + Tab キーを使用できます。これは、Safari の環境設定で次のように設定できます。

Safari ブラウザのメニューから [Safari] > [環境設定 (Preferences)] > [詳細 (Advanced)] > [アクセシビリティ (Accessibility)] > [Tab キーを押したときに Web ページ上の各項目を強調表示 (Press Tab to highlight each item on a web page)] に移動して、環境設定を変更します。

4.3.2 Microsoft Edge のグループポリシー設定に関する重要な注意事項

WebRtcLocalhostIplHandling - [WebRTC によるローカル IP アドレスの公開を制限する (Restrict exposure of local IP address by WebRTC)] グループポリシーが Microsoft Edge ブラウザに適用されている場合は、次のポリシーオプションのいずれかのみを使用してください。

- AllowAllInterfaces (デフォルト) または
- AllowPublicAndPrivateInterfaces (default_public_and_private_interfaces)

他のオプションは、接続の問題を引き起こす可能性があります。

4.4 製品に関する資料

Web アプリケーションのユーザーガイドなどのエンドユーザーガイドや、ビジュアルなハウツーガイドは、次の場所で入手できます。

https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/cisco-meeting-app/products-user-guide-list.html

5 バグ検索ツール、解決済みの問題と未解決の問題

シスコのバグ検索ツールを使用して、問題と利用可能な回避策の説明など、Cisco Meeting Server とWeb アプリケーションに関する解決済みの問題および未解決の問題に関する情報を探すことができます。これらのリリースノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

1. Web ブラウザを使用して、[バグ検索ツール](#)に移動します。
2. cisco.com の登録ユーザ名とパスワードでログインします。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドにバグ ID を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。

ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。

または、

[製品 (Product)] フィールドで **[シリーズ/モデル (Series/Model)]** を選択し、**「Cisco Meeting Server」** と入力し始めます。次に、**[リリース (Releases)]** フィールドで **[これらのリリースで修正済み (Fixed in these Releases)]** を選択して、たとえば **「3.8」** とリリースを入力して検索します。

2. 表示されたバグのリストから、**[変更日 (Modified Date)]**、**[ステータス (Status)]**、**[重大度 (Severity)]**、**[評価 (Rating)]** ドロップダウンリストを使用してリストをフィルタリングします。

バグ検索ツールのヘルプページには、バグ検索ツールの使用に関する詳細情報があります。

5.1 Cisco Meeting Server で解決された問題

以前のバージョンで発生し 3.8 で修正済みの問題

シスコ識別子	要約
CSCwd25525	CMS2K TLS syslog の信頼が一貫して機能しない
CSCwd06315	SIP エンドポイントで設定された分散型コールで、WebRTC ユーザーが静的コンテンツを含む Chrome タブを共有すると、SIP 参加者が数秒間断続的にグレー画面を表示した後、復元できます。

5.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーションで解決された問題

次の表に、以前のバージョンで発生した問題のうち 3.8 で修正された問題の一覧を示します。

シスコ識別子	要約
CSCwf87693	24 万人のユーザーに対応する Meeting Server 2000 のスペースでユーザーを検索または追加できない。 注：Web アプリケーションで会議をスケジュール中に、参加者の E メールアドレスを直接検索に貼り付けた場合、ユーザー検索に時間がかかる場合があります。
CSCwf43552	会議で、Web アプリの参加者がプレゼンテーションを行っているときに SIP 参加者が画面共有を引き継いだ場合、Web アプリの参加者は SIP 参加者の画面共有を表示できません。
CSCwf02530	スケジューラを使用して参加者を追加しているときに、キーボードのバックスペースボタンを使用して誤ったエントリを削除すると、参加者の検索結果が機能しなくなります。
CSCwe26144	Web アプリ スケジューラを使用してミーティングをスケジュールするときに、参加者の役割が「役割 1」（デフォルト）として選択されている場合、参加者は【参加 (Join)】ボタンを使用してミーティングに参加できません。
CSCwd56907	参加者が Google Chrome および Microsoft Edge ブラウザの【通話情報 (Call information)】で【E メールを開く (Open Email)】を選択すると、参加者は Web アプリケーション会議から切断されます。

5.3 Cisco Meeting Server の未解決の問題

次に、Cisco Meeting Server ソフトウェアのこのリリースの既知の問題を示します。詳細が必要な場合は、[バグ検索ツール](#)の【検索 (Search)】フィールドに Cisco の識別子を入力してください。

シスコ識別子	要約
CSCwf69666	IMPS ノードから誤ったステータスが送信されるため、Meeting Server はセカンダリ IMPS ノードのユーザーの誤ったプレゼンスステータスを断続的に更新します。
CSCwh41791	CMS 2k で、webbridge へのアクセスに断続的に失敗する
CSCwd89530	ctrl+C を使用してパケットキャプチャを適切に停止せずに端末を突然閉じると、CMS が再起動するまでパケットキャプチャを実行できません。

シスコ識別子	要約
CSCwb77929	複数の Web Bridge を使用した展開では、Web アプリの参加者は、メモが最初に保存および公開されたのと同じ Web Bridge に接続されている場合にのみ、会議メモを見ることができます。
CSCwa83782	会議が TMS で自動接続タイプとして予約されており、参加者の 1 人が管理対象外のデバイスを介して会議に参加しています。会議が開始されると、参加者は CMS/TMS によって呼び出されますが、Meeting Server はしばらくするとそのコールを切断します。
CSCvz01886	参加者のロールにビデオとプレゼンテーションを共有する権限がない場合、ロールが変更され、ビデオとプレゼンテーションを共有する権限がある場合、他の参加者がコンテンツを共有するときにプレゼンテーションは表示されません。
CSCvt74033	コンテンツの共有中に、イベントがトリガーとなって Webex Room Panorama が 2 つのビデオストリームの送信を 1 つに減らした場合、リモート エンドポイントが Room Panorama から受け取るビデオのフレーム レートが著しく低下する可能性があります。
CSCvh23039	アップローダコンポーネントは、NFS に保持されているテナント録音では機能しません。

5.3.1 既知の制限事項

- Cisco Meeting Server は、バージョン 3.1 から TURN の短期のログイン情報をサポートしています。この操作モードは、TURN サーバーがバージョン 3.1 以降の Meeting Server TURN サーバーなどの短期のログイン情報もサポートしている場合にのみ使用できます。Expressway で Cisco Meeting Server を使用すると、短期のログイン情報はサポートされません。

5.4 Cisco Meeting Server Web アプリケーションで未解決の問題

シスコ識別子	要約
CSCwh48463	参加者がアンケートのタイトル/質問/オプションに " (二重引用符) を入力して [保存 (Save)] を選択すると、アンケートは作成されず、それ以降はアンケートを作成できなくなります。
CSCwh48464	Web アプリケーションの参加者がビデオに仮想背景を適用してからブラウザタブを更新すると、Google Chrome および Mozilla Firefox ブラウザで仮想背景が黒く表示されます。
CSCwc76769	Google Chrome ブラウザで、参加者がビデオにぼかしを適用して Web アプリの会議を退出しても、カメラはオンのままで閉じません。
CSCwa17363	Web アプリでは、会議管理からロビーに移動した参加者は、ロビーで待機している場合でも、会議の参加者のリストを引き続き表示できます。
CSCvz01888	会議前にスペースでメンバーの役割が変更された場合、メンバーが会議に参加すると、役割変更通知が表示されます。
CSCvu98805	Firefox ブラウザで Web アプリケーションから会議に参加しているときに、2 番目のウィンドウで受信したプレゼンテーションを開いている場合、プレゼンターが共有を停止して再開するか、会議の他の参加者が同時にコンテンツの共有を開始すると、コンテンツが応答しなくなることがあります。これは Firefox ブラウザに関する問題です。詳細については、 https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=1652042 を参照してください。 回避策：2 番目のウィンドウを最大化するか、プレゼンテーション ウィンドウを閉じてからもう一度開きます。
CSCvt71069	ビデオ レイアウト [スピーカー大 (speaker large)] が選択された場合、ウィンドウのサイズが正常に設定されません。

付録 A : Meeting Server プラットフォーム メンテナンス

Cisco Meeting Server ソフトウェアが実行されるプラットフォームを維持し、最新の更新プログラムでパッチを適用することが重要です。

A.1 Cisco Meeting Server 1000 およびその他の仮想プラットフォーム

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、次のプラットフォームで仮想化された導入として実行されます。

- Cisco Meeting Server 1000
- 仕様ベースの VM プラットフォーム

A.2 Cisco Meeting Server 2000

Cisco Meeting Server 2000 は、仮想化された導入としてではなく、物理的な展開としての Cisco Meeting Server ソフトウェアを実行する Cisco UCS テクノロジーに基づいています。

注意：プラットフォーム (UCS シャーシによって管理される UCS シャーシおよびモジュール) が最新のパッチで更新されていることを確認し、[『Cisco UCS Manager ファームウェア管理ガイド』](#)の指示に従ってください。プラットフォームが最新の状態に維持されていないと、Cisco Meeting Server のセキュリティが低下する場合があります。

A.3 コールキャパシティ

以下の表は、Cisco Meeting Server ソフトウェアをホストしているプラットフォームのコール キャパシティの比較を示しています。

表 3 : Meeting Server プラットフォームのコールキャパシティ

コールのタイプ	Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
フル HD コール 1080p60 ビデオ 720p30 コンテンツ	30	40	218	324
フル HD コール 1080p30 ビデオ 1080p30/4K7 コンテンツ	30	40	218	324

コールのタイプ	Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
フル HD コール 1080p30 ビデオ 720p30 コンテンツ	60	80	437	648
HD コール 720p30 ビデオ 720p5 コンテンツ	120	160	875	1,296
SD コール 480p30 ビデオ 720p5 コンテンツ	240	320	1,250	1,875
音声通話 (G.711)	2,200	3,000	3,000	3,200

以下の表では、単一またはクラスタの Meeting Server のコールキャパシティと、Call Bridge グループ内のコールのロードバランシングを比較しています。

表 4 : クラスタおよび Call Bridges グループの Meeting Server のコールキャパシティ

Cisco Meeting Server プラットフォーム		Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
個別ミーティング サーバーまたはミーティング クラスタ内のサーバー (注 1、2、3、4)	1080p30	60	80	437	648
	720p30	120	160	875	1,296
および Call Bridge グループ内の Meeting Server	SD	240	320	1,250	1,875
	音声通話	2,200	3,000	3,000	3,200
	HD 参加者 会議ごと サーバーごと	120		450	
	Web アプリケーションの コールキャパシティ (CMS Web Edge 上の 内部コールおよび 外部コール) :				
	フル HD	60	80	437	648
	HD	120	160	875	1,296
	SD 音声通話	240 500	320 500	1,250 1,250	1,875 1,875
Call Bridge グループ内の Meeting Server	サポートされるコールタイプ				
	負荷制限	120,000		875,000	

注 1 : クラスタあたりの最大 24 個の Call Bridge ノード。ノード 8 個以上のクラスタ設計は、シスコによる承認が必要です。詳細については、シスコ サポートにお問い合わせください。

注 2 : Call Bridge グループが設定されていないクラスタ Cisco Meeting Server 2000 では、最大コール数の整数倍 (700 HD コールの整数倍など) をサポートします。

注 3 : SIP コールまたは Web アプリケーションコールにクラスタあたり最大 21,000 の HD 同時コール (24 ノード X 875 HD コール) が適用されます。

注 4 : クラスタ内の Meeting Server プラットフォームに応じて、1 つのクラスタの会議あたり最大 2600 の参加者。

注 5 : 表 4 は、ビデオ通話で最大 2.5 Mbps-720p5 コンテンツ、音声通話で最大 G.711 のコールレートを想定しています。その他のコーデックや高いコンテンツ解像度/フレームレートは、容量の減少につながります。会議が複数の Call Bridge にまたがる場合は、分散リンクが自動的に作成され、サーバーのコール数とキャパシティに対してもカウントされます。負荷制限の数値は H.264 にのみ使用されます。

注 6 : クラスタでサポートされるコールセットアップレートは、SIP コールでは 1 秒あたり最大 40 コール、Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールでは 20 コールです。

A.4 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコール キャパシティ

このセクションでは、外部コールおよび混在コールに Web Bridge 3 と Web アプリケーションを使用する展開でのコール キャパシティの詳細について説明します。（内部コールのキャパシティについては、表 4 を参照してください。）

A.5 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ：外部コール

Expressway (Large OVA または CE1200) は、中規模の Web アプリの要件（つまり 800 コール以下）の導入に推奨されるソリューションです。Expressway (中規模 OVA) は、小規模の Web アプリの要件（つまり 200 コール以下）の導入に推奨されるソリューションです。ただし、Web アプリの規模を大きくする必要がある導入の場合は、バージョン 3.1 から、必要なソリューションとして Cisco Meeting Server Web Edge を推奨します。

Cisco Meeting Server Web エッジソリューションの使用に関する詳細については、[『Cisco Meeting Server導入ガイド』](#)を参照してください。

外部発信は、クライアントが Cisco Meeting Server の Web エッジ、または Cisco Expressway をリバースプロキシおよび TURN サーバーとして使用して Web Bridge 3 と Call Bridge に到達する場合があります。

Web アプリケーションのコールのプロキシとして Expressway を使用する場合、以下の表に示すように、Expressway により最大コール数の制限が適用されます。

注：Web Bridge 3 と Web アプリケーションを導入する場合は、Expressway バージョン X14.3 以降を使用する必要があります。それより前のバージョンの Expressway は、Web Bridge 3 ではサポートされていません。

表 5：Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ：外部発信に Expressway を使用

セットアップ	コールタイプ	CE1200 プラットフォーム (Platform)	大規模 OVA Expressway	中規模 OVA Expressway
Cisco Expressway (X14.3 以降)	フル HD	150	150	50
	その他	200	200	50

Expressway ペアをクラスタリングすることで、Expressway のキャパシティを増大させることができます。Expressway ペアのクラスタリングは、最大 6 ノードまで可能です（4 ノードは拡張のために使用され、2 ノードは冗長性のために使用されます）。その結果、1 ペアのキャパシティの 4 倍の合計コール キャパシティが得られます。

注：Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールについては、Expressway クラスターのコールセットアップレートが 1 秒あたり 6 コールを超えることはできません。

A.6 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのキャパシティ： 混在（内部 + 外部）コール

スタンドアロンとクラスタのどちらの導入環境でも、内部と外部を組み合わせたコールの使用をサポートできます。内部参加者と外部参加者が混在してサポートされている場合、Web アプリケーションの合計キャパシティは、内部発信の場合と、外部発信に Cisco Meeting Server Web エッジソリューションを使用する場合は、表 4 に従います。ただし、エッジで Expressway を使用している場合でも、外部から接続できる合計内の参加者数は表 5 の制限事項によりバインドされます。

たとえば、1 つのスタンドアロン Meeting Server 2000 と 1 つの大規模 OVA の Expressway のペアでは、音声のみの Web アプリケーションコールであれば混在で 1,000 までサポートしますが、外部参加者の数は、合計 1,000 のうち最大 200 に制限されます。

付録 B: アプリケーション機能の比較

表 6 : Cisco Meeting Server Web アプリケーションの機能比較

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
全般									
Cisco Meeting Server のバージョン	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0
メンバーのアクセスの管理	はい	いいえ	いいえ						
ユーザーレベルのアクセス許可 (例: スペースを作成可能)	はい								
ローカリゼーションのサポート	はい	いいえ							
ブランディング	はい								
オンライン ヘルプ	はい								
暗号化	はい								
シングルサインオン	はい	いいえ							
アラビア語のサポート	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
チェコ語のサポート	はい	いいえ							
ビデオ アドレス (URI) を使用した参加	はい								
会議のスケジュール設定									
スケジュールされた会議一覧の表示	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
会議のスケジュール設定	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
スケジュールされた会議を変更する	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
スケジュールされた会議の削除	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
スペースの管理									
空白 (スペース) メンバーの役割	はい	いいえ	いいえ						
スペースの作成/編集	はい								
新しくプロビジョニングされたスペースをアクティブ化する	はい	いいえ							
スペースメンバーの追加/編集/削除	はい								
メンバー追加機能のディレクトリ検索	はい								
スペースの情報の表示	はい								
招待状を送信	はい								
音声とビデオ									
音声	OPUS								
ビデオ	H.264、VP8								
マイク/カメラ設定の制御	はい								
背景をぼかす	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
仮想背景	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
遠端カメラ制御	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
オーディオとビデオの自動優先順位付け	はい	はい	いいえ						
画面共有									
コンテンツの拡大	はい	いいえ	いいえ						
コンテンツのズームをリセット	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
画面共有の表示	はい								
デスクトップ共有	はい								
アプリケーション共有	はい								
新しいウィンドウでの画面共有の表示	はい								
ビデオペインのサイズ変更	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
コンテンツのオーディオの共有	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
テキスト用に最適化(1080pで画面を共有)	はい	いいえ							
チャット									
チャット (会議のすべての参加者にブロードキャスト)	はい (会議中のみ)	いいえ	いいえ						
チャット (プライベート)	はい (会議中のみ)	いいえ							
通話中									
オンスクリーンメッセージ	はい	いいえ	いいえ						
全画面表示	はい								
レイアウト制御	はい								
名前ラベル	はい								
録音	はい								
ストリーミング	はい								
アクティブスピーカーラベル (ペータサポート)	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
セルフビュー	はい								
セルフビューの固定	はい								

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
セルフビューのミラー表示	はい								
セルフビューの移動	はい								
HD/SD の選択	はい								
プレゼンテーションのプレビューの固定	はい								
プレゼンテーションプレビューの移動	はい								
議事録	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
クローズド キャプション	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ファイルの共有	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ネットワークの正常性インジケータとメディア統計	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
コンテンツ共有の指標	はい	はい	いいえ						
ロゴのサポート	はい	はい	いいえ						
アンケート	はい	いいえ							
参加者									
参加者の移動	はい	いいえ	いいえ						
参加者を追加	あり (SIP のみ)								
参加者の削除	はい								
ロックされた会議への参加者の許可	はい	いいえ							
参加者の役割の変更	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
参加者を重要にする	はい								
他の参加者の音声とビデオのミュート/ミュート解除	はい								

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
すべての参加者の音声とビデオのミュート/ミュート解除	はい								
コール中の診断を送信	はい								
招待の送信	はい	いいえ							
コール情報の表示	はい	いいえ							
コール中のマイク/カメラの制御	はい								
挙手機能	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
コールの移動									
このデバイスを画面共有とコール管理のみに使用 (別のデバイスが音声とビデオに使用されている場合)	はい								

注：コール中に外部エンドポイントにコールを移動したり、音声を通常の電話に移動したりすることはできません。

アクセシビリティの注意事項

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco Meeting Server に関する Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は次の場所で見ることができます。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence

アクセシビリティの詳細については、以下を参照してください。

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html

アクセシビリティサポート機能

キーボード ナビゲーション

キーボードを使用して Web アプリ内を移動できます。

- Web アプリの領域間を移動するには、**Tab** キーを使用します。アウトラインで囲まれた領域にフォーカスがあることがわかります。
Shift + Tab キーを使用すれば、前のフォーカスエリアに移動できます。
- 項目を選択するには、スペースバーまたは Enter キーを使用します。
- 矢印 キーを使用して、リストまたはドロップダウンメニューをスクロールします。
- 開いている画面/メニューを閉じるには、**Esc** キーを使用します。

スクリーンリーダーのサポート

JAWS スクリーン リーダーバージョン 18 以降を使用できます。

スクリーンリーダーは、フォーカスされた領域/ボタン、画面に表示される通知、警告、ステータスメッセージ、実行可能なアクションなどの関連情報を読み上げます。

例：Web アプリケーション ミーティングで **[参加者の追加 (Add participant)]** 領域にフォーカスすると、スクリーンリーダーが「参加者の追加」とアナウンスし、参加者の SIP アドレスを入力できるようにします。

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、この参照により本マニュアルに組み込まれるものとします。このソフトウェアライセンスまたは限定保証を見つけられない場合は、CISCO の代理店に連絡しコピーを入手してください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト www.cisco.com/go/offices をご覧ください。

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

シスコおよびシスコのロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)